

# 「総評を丸ごと『統一準備会』に入れるために 動労が奮闘すべきだ」と主張する本部革マル分子

## 日刊 動労千葉

82, 8, 17  
No. 1123

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆)四三三(七)七二〇七

### 動労本部が38回全国大会の 方針(草案)を批判するぞ

# 4

前号にひき続き、「本部」革マル反動分子の『動労第三八回全国大会方針案』における「労働」「統一」問題」および「反戦・反核闘争」に関する項目のペテン性と反動性を暴露・弾劾する。

動労を右翼労働統一の先兵に仕立てる反動的「方針案」を許すな!

「方針案」は、「運動の基調」と「具体策」の項において「労働統一について」として次のように述べている。すなわち、

- ① 総評五項目補強見解の堅持と全的統一をめざす。
- ② 統一労働組の「左」からの総評分裂策動を粉碎し、総評の団結を守る。
- ③ 右翼再編に対し批判的な多くの単産との連携を含め、学習会などを通して、具体的に進めます。

これこそ実に見えすいたペテンである。

① について：今や誰の目にもはっきりしている事は、「基本構想との対決・粉碎」なくして、「五項目堅持」と「全的統一」は明らかに両立しない。しかし、富塚執行部も動労「本部」革マルもこの両立しない二つの目標を形式的に掲げておくことによって真実の右翼的「本音」をかくしごまかそうとしているのだ。彼ら富塚路線の下では、「五項目堅持」は単なる形式的アライバイのスローガンにすぎず、あきらかに実践的方针・本音は「全的統一」すなわち「総評の全組合がそろって『統一準備会』へ入ろう」という方針なのである。

② について：「本部」革マル反動分子は、富塚執行部の「全的統一」なる屈服的右翼路線に反対する広範な労働者の当然の声を、極めて意図的に「統一労働組」日共系による分裂策動」にダブラせるといってペテンを使って「富塚執行部の方針に従わない者は全て分裂主義者である」との官僚的・右翼的ドウカツをもって押えこむうとしている。彼らの掲げる「大義名分」は「総評の団結を守れ」とは、この場合「民社・同盟なみの右翼路線のもとで総評の全単産はまともな」という主張である事ははっきりしている。③ について：いかにも革マルらしいこざかしいペテン的な書き方だ。「具体的に進める」とい

うこと。「内容」は何か? 文字づらだけからは、一見、いかにも動労が総評内左派系単産の連帯の先頭に立って右翼的統一方針に対決して闘っていくかのような「巧妙な」言いまわしではないか。しかし、眼をこらして良く見とおして見れば、彼らのやろうとしている事は「右翼再編に反対している単産をもオルグして、統一準備会に全単産そろって一括参加させるために動労は奮闘する」と言っているのだ。

こんなことが許せるか!  
動労をとことん墮落させる  
「働こう運動」路線を粉碎せよ

また、「方針案」は、いたるところで「春闘の終えん」「総評運動の終えん」「政府支配階級の目的は達成された」とくりかえし、「強大な敵と無力な労働者」という革マル派のみがふいちょうしているデタラメな「冬の時代論」で今日の状況をとらえている。

そして、このような情勢認識から出発して、自分が生き延びるためには「働こう運動」で敵の攻撃に率先協力・屈服し、これと闘う者を国家権力や国鉄当局と一体となって叩きつぶし、敵の許しを乞い願うという極めて反動的な体質を定着させたのである。(「国鉄」企業「国家の危機」守れ!働こう!闘うな!)とふるまうに至った今日の動労「本部」と(会社・国家の安定と発展こそ労働者の生活を守る)労働使一体化・生産性向上「国防衛」をさげんで兵器産業育成の要求までも行う同盟・右翼第二組合との間にはもはやさしたるへだたりというものは見当らない。

「ブルトレの裏切り」の中にくっきりとつき出された「働こう運動の反労働者の本質」は「動労」鉄路―当局連合なる墮落の道」は、思想的にも路線的にも「総評(第一組合)が屈服・解体されつつ同盟(第二組合)にのみこまれてゆく」全的「統一路線」と分ちがたく結びついているのである。動労を底なしの墮落と変質の中に引ずりこむ超反動「働こう運動」路線を一刻も早く粉碎し掃き捨てるべきだ。(以下、続く)